

通し番号	3765
------	------

分類番号	12-45-15-08
------	-------------

シキミ害虫クスアナアキゾウムシの生活環			
[要約] シキミを加害するクスアナアキゾウムシ新成虫の発生は、6月下旬から12月下旬まで見られ、8月上旬、9月中旬、10月上旬及び12月中旬に発生ピークが認められた。10月以降に羽化した個体は、産下当年に羽化したものであり、それ以前に羽化した個体は前年に産下された卵に由来するものと考えられた。また9月中旬までに採集した新成虫は発生当年に産卵できることを確認したが、13℃以下の温度では産卵できなかった。			
農業総合研究所 根府川試験場・農業環境部、病害虫防除所、足柄農改			
連絡先	0465-29-0506	0463-58-0333	0465-83-5111

[背景・ねらい]

ミカン転換作物のシキミ（香の花）の栽培面積の拡大に伴って、クスアナアキゾウムシによる被害が発生し深刻な問題となっている。成虫に対する効果的な薬剤の選定は行われているが、その防除適期については不明な点が多い。そこで、越冬前の新成虫について、その発生消長と産卵特性等を調査し防除対策の資料とする。

[成果の内容・特徴]

1. 神奈川県小田原市における新成虫の発生は、年により変動が見られるものの、6月下旬頃から羽化・脱出が始まるものと推定された。
2. 新成虫の発生ピークは年により若干の変動が見られるものの、8月上旬に明瞭なピークが見られ、その後9月中旬、10月上旬及び12月中旬の計4回のピークが認められた。
3. 新成虫の発生終了時期は10月下旬から12月下旬の間であり、年内に発生が終了した。
4. 10月以降に発生した新成虫は、調査用に被覆したネットの固定部付近(地上50cm前後)からのものであった。本来の産卵場所である地際部が被覆されているため産卵できず、止むを得ずこの部分に産卵した結果と考えられた。すなわち、ネットを設置した5～6月以降に産下された卵が10月以降に羽化したものと考えられた。
5. 以上のことから、神奈川県におけるクスアナアキゾウムシの新成虫の発生は、早い時期（6月以前）に産卵された卵は、年内に羽化・脱出し、それ以降に産卵された卵は翌年の7月以降に羽化・脱出する生活環をとるものと考えられた。
6. 8月下旬から9月下旬までに採集した新成虫は、産卵が可能なが確認された。
7. 13℃以下の低温で飼育した個体は産卵することはなく、また摂食量も著しく劣った。

[成果の活用面・留意点]

1. クスアナアキゾウムシ成虫の防除適期は、春からの越冬成虫活動期(4～6月頃)と、新成虫が発生する7月中～8月下旬、9月中～10月下旬及び12月中旬と考えられる。

〔 具体的データ 〕

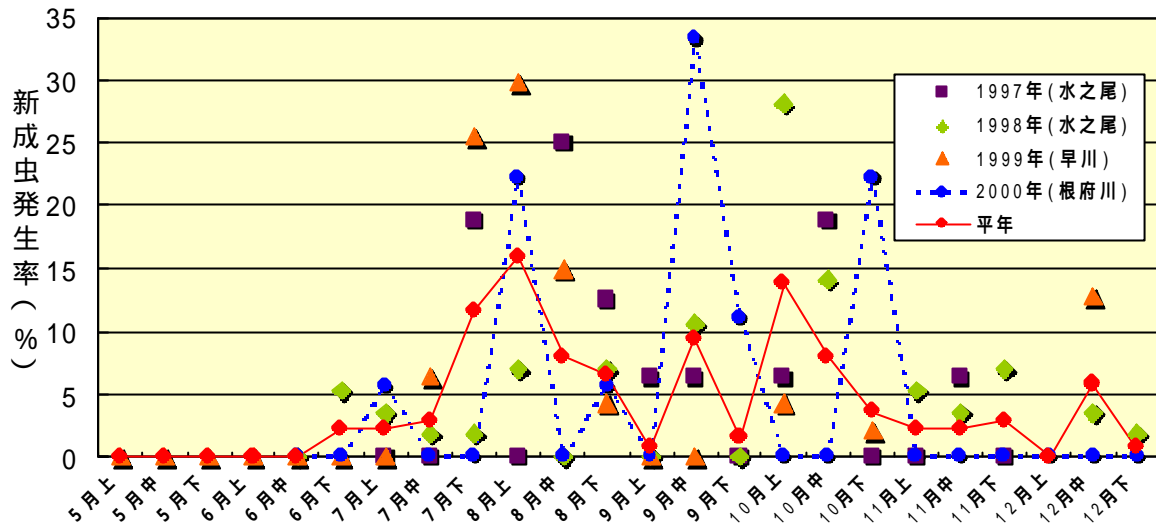


図1 クスアナアキゾウムシ新成虫の発消長

表1 採集時期が異なるクスアナアキゾウムシ成虫の産卵個体数

採集日	8月下	9月上	9月中	9月下	10月中	10月下	11月中	合計
新成虫	2/3 (67)	1/1(100)	17/27(63)	3/11(27)	1/7(14)	0/2(0)	0/1(0)	24/52(46)
越冬成虫	3/3(100)	-	5/9 (56)	2/2 (100)	-	-	-	10/14(71)

* : () 内は産卵個体率%

表2 異なる飼育温度での新成虫の生存率、産卵率および摂食量

個体数	生存率			産卵個体率	摂食量
	1ヵ月後	2ヵ月後	5ヵ月後		
25	4 / 4	8 / 8(100)	5 / 8(63)	0 / 8(0)	2/4(50) + + +
21	5 / 5	8/10(80)	6/10(60)	3/10(30)	1/5(20) + + +
17	5 / 5	6/10(60)	6/10(60)	5/10(50)	1/5(20) + +
13	8 / 8	11/16(69)	11/16(69)	11/16(69)	0/8(0) +
9	5 / 5	10/10(100)	7/10(70)	7/10(70)	0/5(0) ±
5	7 / 7	14/14(100)	11/14(79)	6/14(43)	0/7(0) -

* : () 内は産卵個体率%

〔 資料名 〕 平成12年度試験研究成績書 (カンキツ・キウイフルーツ)

〔 研究課題名 〕 新発生、侵入害虫等の緊急防除対策試験

〔 研究期間 〕 平成9～12年度

〔 研究担当者名 〕 鈴木 誠・浅田真一・片木新作・原 聖樹・遠藤 毅・鈴木美穂子